

関係者各位

大川地区医師会
在宅医療・介護連携支援センター

在宅医療・介護連携推進事業「医療・介護普及啓発講演会」報告について

令和7年度 在宅医療・介護連携推進事業「在宅医療・介護普及啓発講演会」を下記の通り開催いたしましたので、ご報告いたします。

1. 日 時 令和7年8月31日(日) 13:30～15:50
2. 場 所 東かがわ市交流プラザ(東かがわ市湊 1806-2)
3. 講演内容 <講 演>
 テーマ「住み慣れた場所で、自分らしく生きる」～訪問看護の経験から～
 講師：訪問看護ステーション 紋
 看護小規模多機能型居宅介護 ナースホーム紋
 所長 山下 由奈氏
 <映画上映>「ピア ～まちをつなぐもの～」
4. 対 象 東かがわ市・さぬき市の住民、医療・介護関係者(病院や介護施設等を含む)
5. 定 員 200名程度
6. 主 催 東かがわ市・さぬき市・大川地区医師会
7. 参加人数 全体129名 (一般住民:81名 医療・介護関係者:48名)
 内訳:東かがわ市63名、さぬき市41名、その他11名、当日14名
8. アンケート結果 回収数89名(回収率 69%)

1)回答者状況

(1) 地域

地域	さぬき市	東かがわ市	高松市・三木町
人数	38	46	5
比率(%)	43	52	5

(2)年代

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
人数(人)	0	4	2	6	15	24	23	15
比率(%)	0	4	2	7	17	27	26	17

(3)職種

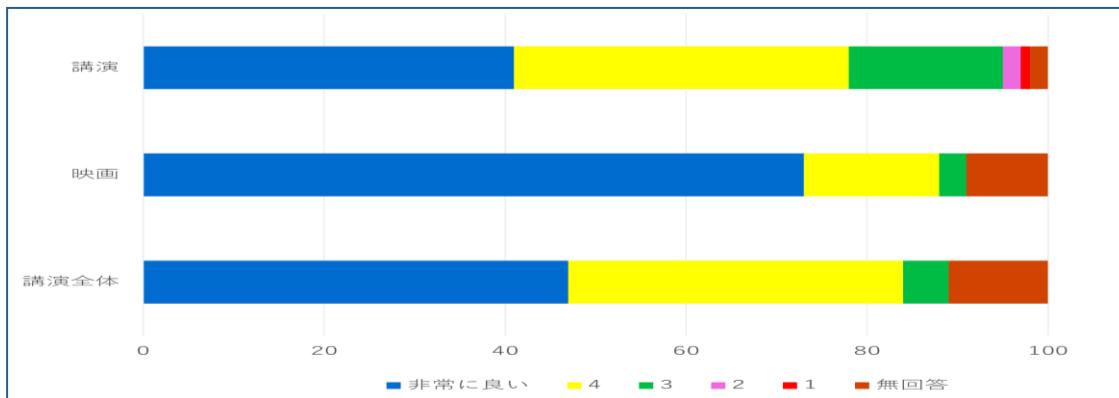
年数	一般住民	学生	医療職	介護職	その他
人数(人)	52	4	18	12	3
比率(%)	59	4	21	13	3

※医療職内訳→薬剤師・保健師・看護師・OT・看護教員・事務職等

※介護職内訳→ケアマネ・介護福祉士・訪問介護員等

2)研修会の内容について

項目	5 非常に良い	4	3	2	1 いいえ	無回答
講演	36	33	15	2	1	2
映画	65	13	3	0	0	8
講演会全体	42	33	4	0	0	10



3)講演会について気が付いたこと

- ・就活から終活、どこまでも自分がどうなのか(生きるということ、どう生きるか)を考えるきっかけになった。11
- ・今後ますます在宅医療、看護に対するニーズは増えていく。あらためて一人一人に向き合う在宅医療は大切だと認識させられた。8
- ・自分の体験を通しての話して良かった。もっと聞きたかった。6
- ・訪問看護師の重要性がわかり、同時に、負担の大きさを感じた。システムで何か援助できたらと思う。4
- ・助け合うこと、住み慣れた地域で生活できるには…の原点でいたいと思う。専門職の大切さ、チームワーク大切です。本人の意向に寄り添うこと、日頃からの関係作りが大切。4
- ・意思決定支援を行っている者として、これからも寄り添う支援を行いたい。3
- ・看取りに対する本人・家族への支援、声かけ方法に感銘を受けた。訪問看護師として講師の強い思いも感じることが出来て良かった。2
- ・講師の言っていた「最期の最期まで自分らしく」、そういう支援をケアマネとして関わられたら、幸せだと感じた。2
- ・本当にこの様な在宅医療があったら、老後はとても安心。2
- ・楽しく苦しまず最後まで生きられたらいです。2
- ・「ピア」を見て、ケアマネとして本人、家族の力に少しでもなりたい。2
- ・将来必ずやってくる現実、出来れば周りに迷惑をかけたくない。しかし自分らしく最期を送りたい。両方を実現させるために考える助けになりました。
- ・認知症になつても家で過ごしたい。
- ・講師の方が仕事に真面目に取り組んでいることがわかった。今後も色々なところで講演をして様々な人に伝えて欲しい。
- ・「いつも側にいるから、心配しないで」「何かあつたら夜中でも電話して」本人、家族は心強いと思う。しかし、訪問看護師さんは大変だろう。訪問看護師たちが働きやすい環境を作るには、行政のサポートも必要なのではないか。サポートがある東かがわ市、さぬき市になればここに住みたいと人口減少の抑制にもつながるのではないか。

- ・利用者が亡くなられたときに、ご本人が気に入っていた衣装を着て旅立てるような心遣いに感銘を受けた。家族に対しても、安心できる声掛けをされているなあと思った。
- ・数年前自宅で父親を見取った。その時に訪問看護師さんにお世話になり助けていただいた。いいお話を聞けた。
- ・年配の方の参加が多く、こんなに在宅への関心があるのかと、病院での体感と地域に出ての体感は違うのだと思った。
- ・情報共有、連携の大切さ、寄り添うことが再認された。
- ・(医師会の)先生方の挨拶の ACP? 聞きなれない言葉だったので、もっと情報が知りたくなった。調べてみます。

4) 保健医療大学の学生へのメッセージ

- ・しっかりした進行役で、将来の期待を感じた。患者に寄り添う、信頼を得る医療職員になって、笑顔がたくさん見られることを期待します。11
- ・社会人になった時、今の経験が役立つ時が来ます。人の役に立つ人になってくださいね。又、人の話を聞く人にもなってください。人生の見方が変わります。8
- ・日頃から努力されていると感じた。これからも色々な経験をして、頑張ってください。8
- ・講演後、映画の後、短時間で自身の感想をまとめて述べられていて、すごいなあと聞きほれました。若い力を分けでもらった感じです。7
- ・山、谷、嵐あり、ザ我慢、頑張ってください。根性です。またどこかで。3
- ・どんどん地域に出て来られると、宝物をたくさん見つけられると思います。2
- ・今後の高齢社会において看護が不可欠になる。しっかり頑張って。2
- ・自分の夢や目標に向かって頑張ってください。2
- ・講師へのお礼もしっかりと書いて、声もよく通り聞きやすかった。2
- ・自分がどう死んでいくかと考えることは、どう生きていきたいかということだと思う。自分らしく生きたい・死んでいいたい、という人の支えや協力できる人物になってくれたら嬉しいです。
- ・ここにある看護が出来る人になってください。

5) その他

- ・「ピア」良かったです。今後も定期的に講演会(映画上映、シリーズで)を実施してください。9
- ・今後も色々な講演会に参加して、人に役に立ちたい。(微力ですが) 4
- ・全国で在宅が一番少ないのは残念。4
- ・自分も一人のケアマネとして、学びある講演を聞いてよかったです。2
- ・在宅で最期を迎えるので、「ピア」なシステム作りお願いします。私の出来ることはできるだけお手伝いしたい。
- ・映画のみという会も開催してほしい。
- ・今の若者がこの映画を見て、どのような感想を持ったか興味深い。
- ・地域の現状をもう少し聞きたかった。
- ・看取りの良い点、困難な点、看取りをしていくための心がけなど話しあうような、質疑応答があれば良かった。
- ・公演回数を増やすと、参加者が増えると思う。
- ・在宅支援、往診をしてくれる医者が少ないとと思っている。(大川地区)
- ・東讃地域で 24 時間体制の訪問診療をしてくれる在宅医療体制整備がされているのか疑問を感じた。
- ・もっと様々な年代の人に講演を聞いてほしい。

6)所感

令和7年度在宅医療・介護連携推進事業「在宅医療・介護普及啓発講演会」ですが、暑い時期での開催にも関わらず、多くの地域住民のみなさまのご参加をいただき、盛況のうちに終わることが出来ました。

今回の講演会では、在宅医療における4場面(日常の療養支援・入院・退院指導・看取り)の「看取り」における意思決定支援に焦点を当て開催いたしました。講演では、日々休みなく訪問看護師としてご活躍されている山下様をお迎えし、長い訪問看護師としての経験や、その中で触れ合ってこられた対象やご家族との貴重なエピソードをお話していただきました。講演終了後のアンケートの中にもありました、医療・介護従事者が、対象やその家族に、いかに安心してもらえる存在でいられるか、対象や家族は「安心」「あなたがいたら大丈夫」という存在を求めていているのだと、私も医療従事者の端くれとしてあらためて感じ、その思いは、後半の「ピア」にも引き継がれていきました。

今回の講演会では、保健医療大学の学生にも、お手伝いをいただきました。最終学年で実習や研究発表に大変な中、若い力とこれまでの経験を發揮し、スムーズな司会進行役を担ってくれました。みなさまからいただいた、メッセージを励みに素敵な医療従事者に成長されることを期待します。

今後も地域住民の方々のニーズを聞きながら、そこに合った講演会の開催を実施して行けるように、努めて参ります。

大川地区医師会 在宅医療介護連携支援センター
在宅医療コーディネーター 木田恵美子